

よ び か け

ここ数年来の新潟県の教育は、中学校を中心とする校内暴力をはじめ、少年刑法犯が激増し、非行の低年齢化が一層進むなど、荒廃が一段と深まっています。また現実の教育活動も困難をきわめています。

一方、教育内容や教育行政の反動化は急速にすすみ、戦後日本の民主教育の根幹をゆるがす政治的もくろみが活発化しています。

また豊かですこやかな心身と、高いたしかな学力の子どもに育てるために、学校に求める県民、父母の教育要求は切実で多様です。

このような状況のなかで、新潟県では、教育の諸問題についての基礎的な研究が著しくたちおくれれており、そのために民主的な教育運動も真に科学的な運動展望をもてないでいます。また県内には、すぐれた民主的な教育実践の伝統と蓄積があるにもかかわらず、それらが県民の共同の財産として教育運動のなかにしっかりと位置づけられてはいません。教育に関する正確な情報も、県民に知らされていない状況です。

わたくしたちは、県民の多様な教育要求に応え、かつ民主的な教育運動を支えるにたる系統的で科学的な教育研究のための機関の設立は、いまや緊急の課題になってきたと考えます。そしてそのような機関として、民間の「教育研究所」の設立を思いました。

資金やスタッフの点で「研究所」設立の事業が、多くの困難を伴い、教育要求の多様さや切実さに比べて、「研究所」の力量がふさわしく発展する確信がもてるわけでもありませんが、小さな「研究所」でも、県民の情熱と英知とを結集することができれば、新潟県の教育の民主的な発展のために、多大の貢献をすることができると確信しています。

わたくしたちは、以上のような現状認識のうえにたつて、「社団法人にいがた県民教育研究所」（仮称）の設立を
よびかけるものです。

一九八三年一〇月

よびかけ人
（五十音順）

| | | | | | | | |
|---|----|---|---|---|---|---|---|
| 八 | 本 | 坂 | 沼 | 長 | 関 | 木 | 足 |
| 木 | 間 | 東 | 波 | 崎 | 川 | 村 | 立 |
| 三 | 藤 | 克 | 貞 | 明 | 智 | 隆 | 定 |
| 男 | 四郎 | 彦 | 夫 | | 子 | 利 | 夫 |